

教育福祉常任委員会会議記録

1. 期 日 令和4年2月16日(水) 開会 13時30分
閉会 15時04分
2. 場 所 第1委員会室
3. 付議案件 閉会中の継続調査(所管事務調査)について
「二宮町の資源を生かした子どもの育成環境」
4. 出席者 根岸委員長、羽根副委員長、小笠原委員、前田委員、一石委員、善波議長
傍聴議員 0名
一般傍聴者 0名
議会事務局 3名 議会事務局長、庶務課長、副主幹

閉会中の継続調査(所管事務調査)について「二宮町の資源を生かした子どもの育成環境」

委員長 ただいまより、教育福祉常任委員会を開催する。本会議前の正式委員会である。お手元の資料の議題は2点ある。一つは3月議会の報告内容で、まとめということで、このようなかたちにした。1、2、3、4、5 ぐらいの箇条書きの内容でよろしいか。読みあげる。1. 1月24日に勉強会を開催。12月以降は、議員が町のスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーへのヒアリング及び教育委員へのヒアリングをした。それらを含めてこれまでの動きをまとめる方向で意見交換をした。まだ途中経過であるが一部を報告する。2. 不登校への対応に関するものとして、二宮町にあるのは、教育支援室としてスクールカウンセラーやSSWの配置がシステム化されていること、通室する場所としてやまびこ、民間フリースクール2つ、5校全体で一人も取り残さない集団づくりに取り組んでいること、オンラインでの学びの確保、各学校内で例えば保健室登校と呼ばれるような対応などが挙げられる。それは今までの調査対象としたところである。3. 委員会では、各取り組みを実施する現場の方々へのヒアリングを通して、現在実行しているものはよくやっていたいことも実感している。しかし、学校現場において学校に通うことに不適應を生じる子どもたちがいること、今後も増えるのではないかとということも同時に感じている。4. 選択肢を増やすことが必要だというのが我々の端的な結論としてある。選択肢の一つとして、委員会内では校内フリースクールの設置が一つの方向性としてあげられているが、現在教職員配置の課題が大きいという認識である。5. 今始められることは一色小学校でスタートしようとしているフリースペース作りへの支援を、町で検討してほしいということになるのではないかと。これまでのことをまとめるとともに、もう少しフリースペース作りへの支援体制について、更に委員会内で議論を深めたいと考えているというような結びにもっていったらいいか。このような内容で要点、要旨はいかがか。

一石 2 だがこのようなことはすでに知っていたことで、調査して分かったこととしてよいのか。これは報告する内容なのか。

委員長 そうである。報告する内容だが、二宮町の資源を生かした子どもの育成環境という大きなテーマの部分で、2 番に対しては直接ヒアリングをした内容であるとともに、こういうものが町にはあったということを挙げてみた。

一石 社会資源のことはもうすでに分かっていたことで、聞き取りして分かったことを書くべきではないか。3 に不適應を生じる子どもたちがいることが今後も増えるのではないかとあるが、現実に非常に増えている。小中で 50 人どころではない。大変な危機感を持って対応しなければならないということが分かっていると思う。それと 4 の一色小学校でスタートしようとしている、フリースペースづくりへの支援を町で検討してほしいということはほんの一部で、私たちが学んだことはスクールソーシャルワーカーが足りていないということと、十分なアクセスのできていない状況があるということである。

委員長 暫時休憩にする。

委員長 休憩をといて再開する。休憩時間に議論をしていただいた。報告内容についてだが、12 月議会以降、1 月 19 日の調査研究会ではスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー及び教育総務課の課長と課長代理同席のもと、現状の課題についてヒアリングをした。1 月 21 日には教育委員 3 名と、教育長と教育部長同席のもとヒアリングをした。1 月 24 日には調査研究会を行い、委員会内で議論をした。その結果 SSW と SC については現状では時間が足りずに、すべての子どもたちを見ることができないということを言っていた。他の自治体に比べ SC や SSW が手厚く配置されていることを理解し、努力していることも伝わっているが、今の状態では子どもたちへの丁寧なケアに入れるような状態ではないということが分かったので、増員と時間を増やしていくことが必要であるという意見でまとまっている。その他、校内フリースクールの先進的取り組みを行っている横浜市立山内小学校の実践事例についても情報収集した。我々委員会の中では選択肢を増やしていくということが重要だと考えていて、そのうちの一つとして校内フリースクールの設置を一つの方向性として目指したいという考えを持っている。今後も校内フリースクールの研究を続けていくという報告内容でよろしいか。
(「異議なし」との声あり)

小笠原 ここまで充実した委員会活動をしてきたと考えている。その中で 12 月前の時期に町内のフリースクールを勉強させていただいた。私たちの研究テーマである二宮町の資源を生かした子どもの育成環境においては、町が税金を使ってシステムを作っていくだけではなく、二宮町の資源というところで民間のフリースクール

を活用した部分も重要であると考えている。そこもいろいろ使いやすくしていくための仕組みを研究していきたいと思うので、委員の皆さまと共に調査研究できればと思う。

委員長 これ以上の研究というのは委員会内で議論をして、内容を煮詰めたいということか。現場のヒアリングは行ったので。

小笠原 その通りである。

一石 ただいま小笠原委員から重要な指摘があった。公民連携が大切な局面を迎えている。私たちの委員会も当初から二宮町内の有志で非常にやる気のある保護者、課題を解決したい保護者の皆さまと学びを進めてきたこともあり、町民の意見を活かした二宮独自の子どもたちの居場所、または公民連携のフリースクールについても検討したらよいかと思っている。

委員長 公民連携とおっしゃったが、これから何かそういう動きが出そうというか、具体的なイメージを持つということか。フリースペースがそういう場所にあたるのかと思った。

一石 一色小学校にはフリースペースがあるが他にも学校外のフリースクールについて研究されている方々もいるし、今小中学校もそうだが、非常に重要だと言われている「森の幼稚園」についても研究を進められている団体がある。そういうことが町内の動きとも連携することが重要ではないかと思っている。

羽根 公民の連携というのは、どのようなイメージを求めているのか。

一石 公と民が得意なところを分担して作っていくことである。この町がこれから研究すべき分野だと思っていて、議会でもせつかく町民の発露があるので、それを活かすように研究すべきだと私は思っている。

羽根 提言書を作成するのに期限があると思うが、そこまでに研究し、提言内容に何か入れられれば入れていくというイメージを持っているのか。

一石 そうである。最初にこの委員会でもすぐにできること、中期でできること、それを整理していこうということがあったので、すぐにできる提言、今後の行政が取るべき方向性についての提言は可能であるかと思っている。

委員長 私のイメージでは資源の発掘という感じかと思うが、それ以上に公民連携とおっしゃっているので、連携するべき点を探るということであるか。一石委員は具体的に今からやろうとしている団体と話をしたということだと思うが。他に意見あるか。

前田 公民連携ということだが、期間があと半年で9月末まででは厳しいと思う。まとめ

るのは 8 月の初めまでになってくると思うので、研究は入れてもよいと思うが、提言に向けては厳しいのではないかと。たとえば A という団体がやろうとしていること、これに対して私などは何も理解していないので、それを理解するのも相当時間がかかるし、また教育委員会がやろうとしている国自体の学習指導要領にのっとったかたちを当然公の方はやらなければいけないわけで、それに対して民との連携は厳しいのではないか。星槎学園とは中学校は連携していると思うが、別の方とはまるっきり教育委員会は否定しているので、そういったことはないと思う。そういったところで研究するのはよいが提言までは厳しいのではないかと思う。

一石 今、町民の方々の中で動いているところなので、それを見ながら議会としてできることを研究したいと思う。

議長 先ほど一石委員の方から、議会でと言っているが委員会としての間違いである。

羽根 今の一石委員からの発言だが、具体的なことがまだ分からないので、この時点では決めかねる。前田委員の意見もあるしそういう考えを持っているというところで今日は一旦終わりにしたらどうかと思う。

一石 もちろん。意見として言った。

委員長 今日出たものについては議会後の委員会で意見を検討していくということによろしいか。
(「はい」との声)
これをもって本日の教育福祉常任委員会を閉会とする。

閉会 15 時 04 分